

[専門教育科目/看護の統合と発展]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護総合実習	NSP44_002	必修	2	4	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
渡邊 美樹 他	303	m-watanabe	水曜日 12:10~13:00		
授業の目的・概要	4年前期までの講義・演習・実習を踏まえ、理論と実践の統合を目指し思考を深めることにより、自己の看護観の確立および今後も継続して看護を探究する姿勢を獲得することを目的とする。卒業後に経験すると思われる臨床実践の状況に即した経験ができる実習を行い、臨場感のある看護場面から看護の専門性を考察していく。多様化する看護実践の場に合わせ、具体的な実習方法は、領域分野ごとに特色のある実習を行う。				
学習上の助言	これまでの学修で気づいた看護における課題について、興味を持って調べたり行動して、理論と実践を結び付けてほしい。また、卒業後の臨床実践への期待を膨らませるように積極的に実習に取り組んでほしい。				
教科書	各領域分野により提示される				
参考書	各領域分野により提示される				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護実践における課題を明確にし、主体的に実習に取り組むことができる	NS(4)(5)			
②	これまで学んだ知識や技術を統合させて実践に挑むことができる	NS(1)~(4)			
③	実習での実践から、自らの看護を振り返り、看護観を確立することができる	NS(1)~(4)			
④	卒業後の専門職業人としての姿をイメージし期待を抱くと同時に、自らの課題を明らかにすることができる	NS(1)~(5)			
⑤	専門職業人として、生涯学び続ける方法を知り、意欲を持つことができる	NS(5)			
授 業 計 画					
1. 実習時期と期間 4年生前期 2週間					
2. 実習を行う領域分野 基礎看護学領域、成人看護学領域、老年看護学領域、母性看護学領域、小児看護学領域、精神看護学領域 在宅・公衆衛生看護学領域 各領域が提示する実習内容（看護実践を行う上での課題）から、学生が希望する領域分野にて実習する（希望分野に偏りがある場合は、相談の上、調整する）					
3. 実習方法 各領域分野において、特色ある実習を行う。スケジュールや具体的な方法は、オリエンテーションで説明する 臨地での実習、学内での演習、Teamsを利用したオンライン等を混合させて実習していく					
4. 実習内容 各領域分野において、特色ある実習を行う。具体的な内容は、オリエンテーションで説明する					

[専門教育科目/看護の統合と発展]

学習課題・学習時間（時間）							
<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 実習での実践に向けて、必要な知識の事前学習を丁寧に行い、実践に臨むようにする。</li> <li>実習記録・レポート課題 各領域で提示された実習記録やレポート課題について、指示された方法で自らの考えをまとめる。</li> <li>疑問点はなるべくその場で質問し解決するとともに、自主学習においても調べる習慣を持つ。</li> </ul>							
						必要時間： 10 時間	
達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	50	25	10	15	100
総合力指標	知識・技術力	0	5	0	0	0	5
	思考・推論・創造する力	0	15	0	5	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	5	10
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	5	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	15	5	5	5	30
		問題を発見・解決する力	0	5	5	0	10
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
レポート	①	✓	実習中の学びや気づきを実習記録やレポートにまとめ、指示された方法で提出する。看護における課題に対して、解決策を見出すことを目指し、また、実践を通して自分の看護を振り返り望ましい看護を考察する。				内容を確認し、コメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①	✓	各領域分野において、実習を通しての学びや気づき、今後の課題などを発表し合い共有する。				発表内容に助言を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①		実習記録をファイルにて整理し、ファイル提出時は指示された内容に従い実習記録が整えられたものを提出すること。				内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②						
	③						
	④						
	⑤	✓					
その他	①	✓	実習における姿勢や態度については、日々の課題学習や記録への取り組みなどを含めて総合的に評価する。 実習前から自己の健康管理を行い実習に臨むこと。				十分な学びの機会が得られるよう、実習への姿勢や体調管理について適宜指導を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
担当教員：山崎洋子、平尾眞智子、石野徳子、望月宗一郎、藤井充、窪川理英、小林美雪、溝口孝美、森川三郎、山田真衣、堀口まり子、佐野宏一朗、田中深雪、渡邊美樹、伊丹幸子、山崎さやか、吉岡睦世							
登校の際は、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守してください。 Teamsを使ったオンライン実習の可能性もあります。その際、通信容量が無制限のWi-fi環境を推奨します。 臨床現場に向いて実習することもあります。実習前からの感染対策行動を徹底してください。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性があります。							